



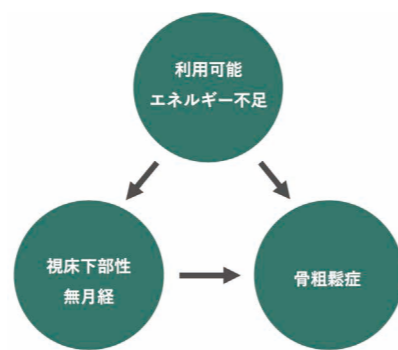
女性アスリート外来を開設しました

整形外科 かどわき まさる
門脇 俊

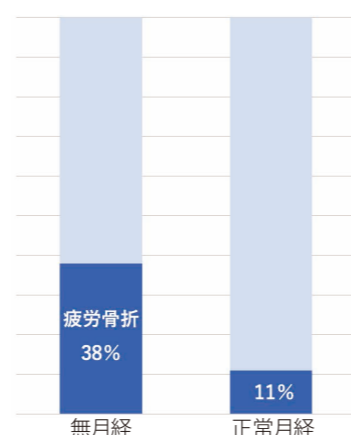
女性アスリートの健康管理上の問題点として、「利用可能エネルギー不足」、「無月経」、「骨粗鬆症」があり、これらは「女性アスリートの三主徴」と呼ばれています。運動によるエネルギー消費量に対して、食事などによるエネルギー摂取量が不足した状態が続くと、卵巣を刺激する脳からのホルモン分泌が低下し無月経となり、正常に女性ホルモンが分泌されず女性器の発育を妨げるばかりか骨代謝にも影響を及ぼします。その結果、思春期の若い女性であっても骨粗鬆症となることも珍しくなく、運動負荷による疲労骨折をきたす危険性が高まります。なによりこのような栄養不足で不健康な状態ではアスリートとしてパフォーマンスが十分に発揮できるはずがありません。

女性アスリートの三主徴はそれぞれの発症が相互に関連しているため各診療科が協力して多角的にケアする必要があります。そこで大学病院の強みを活かし、疲労骨折に対して整形外科、無月経に対し婦人科、骨粗鬆症に対して内分泌代謝内科、低栄養に対し栄養部、そしてパフォーマンス発揮のためのアスレティックリハビリテーションを理学療法部が担当するという包括的な診療体制を構築し女性アスリートのための専門外来を開設することとなりました。

疲労骨折や無月経で悩む女性アスリート(特に思春期の学生)の患者さんがおられましたら是非ご紹介頂ければと存じます。



女性アスリートの三主徴



10代女性アスリートの疲労骨折有無と月経状態

問合せ先 整形外科外来 TEL:0853-20-2385

島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

2月15日～3月14日

対象者: 一般 一般市民 医療 医療関係者 本学 本学教職員・学生

開催日	開催名	場所(★印 学外開催)	対象者	主催者
2/15(土) 9:30~11:30	2019年度 島根県がんピアサポーター相談会	外来中央診療棟3階 がん患者・家族サポートセンター	一般	島根大学医学部附属病院
2/17(月) 17:45~19:00	第2回市民公開講座 健康長寿のための感染症包括ケア	★隠岐病院2階 講堂	一般 医療	健康長寿のための感染症包括 ケアプロジェクトセンター
2/22(土) 10:00~12:00	第3回市民公開講座 健康長寿のための感染症包括ケア	ゼブラ棟2階 だんだん	一般 医療	健康長寿のための感染症包括 ケアプロジェクトセンター
2/23(日) 13:30~15:30	浜田市民フォーラム「島根大学病院の最新治療」2020早春	★浜田市いわみーる4階 401研修室	一般	島根大学医学部附属病院
3/6(金) 15:00~16:00	誰でも参加できる糖尿病教室	ゼブラ棟2階 だんだん	一般	島根大学医学部附属病院 糖尿病ケアサポートチーム
3/9(月) 18:30~19:30	2019年度 臨床研究・統計セミナー	講義棟3階 L3講義室	医療 本学	島根大学医学部附属病院 臨床研究センター
3/13(金) 15:30~	令和元年度第4回 肝臓病教室	ゼブラ棟2階 だんだん	一般	島根大学医学部附属病院 肝疾患相談・支援センター
3/13(金) 16:30~	令和元年度第4回 家族支援講座	ゼブラ棟2階 だんだん	一般	島根大学医学部附属病院 肝疾患相談・支援センター

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。



NEWS



CONTENTS

- ・ウィメンズリハビリテーションについて
- ・島根県で初めて
医学教育専門家の資格を取得いたしました
Certified Medical Education Specialist
- ・女性アスリート外来を
開設しました
- ・島根大学医学部における
研修会・セミナー開催情報

ウイメンズリハビリテーションについて

リハビリテーション部 理学療法士 黒崎 育美
くろさき いくみ

ウイメンズリハビリテーションとは、女性特有の身体の不調によって生じる障害に対するリハビリテーションの総称です。比較的新しい分野であり、世界的には有効性が認められていますが、本邦ではまだ保険適用となっていない。

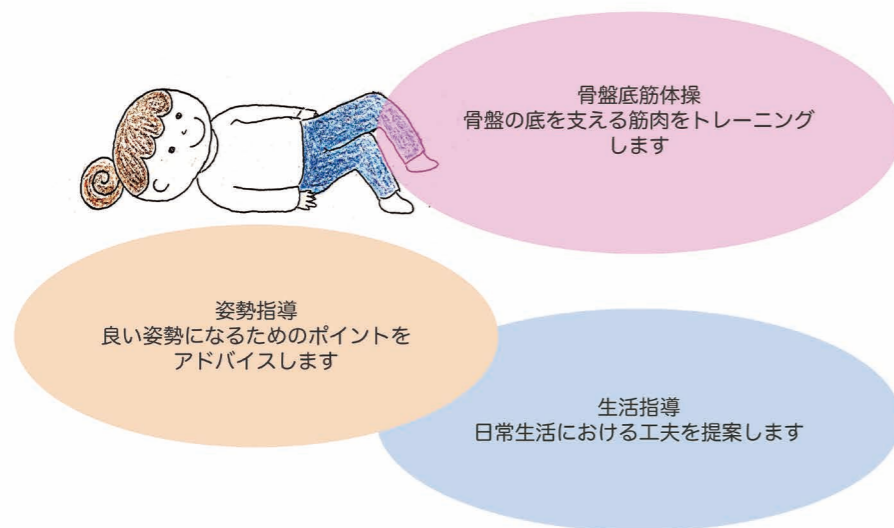
その女性特有の不調の中でも「尿もれ」や「骨盤臓器脱」については、妊娠・出産を経験した40歳以上の女性の多くが症状に悩まされていると言われています。これらの不調は、“骨盤底筋”と言われる骨盤内の筋肉や靭帯が緩むために起こりますが、弱くなった骨盤底筋に対して適切な運動を行うことで症状の改善が期待できます。



そこで当院では、これらの症状を抱える患者さんに対して自費による理学療法のサービスを2019年4月より提供しています。外来で3ヶ月間、骨盤底筋体操に加え、姿勢指導や生活指導を行います。問診・評価を行い、個々の患者さんに合った指導を行います。骨盤底筋体操は「ストレッチポール®ひめトレ」と呼ばれる道具を使用して行うこともあり、当院には「ひめトレインストラクター」という有資格者が2名所属しています。

ウイメンズリハビリテーションの実施をご希望の場合、当院産科・婦人科の受診が必要です。病態や運動による効果が期待できるかについて産科・婦人科医師が判断し、リハビリテーション科医師・理学療法士と連携を取りながら進めています。

(ウイメンズリハビリテーション実施体制の構築は「島根大学医学部附属病院高度医療推進等基金」の助成を受けています)



島根県で初めて

Certified Medical Education Specialist

医学教育専門家の資格を取得いたしました

放射線治療科 診療科長
卒後臨床研修センター ティーチングスタッフ
医学部附属病院 研修管理委員会 委員
医学部 医学教育プログラム委員会 委員
たまき ゆきひさ
玉置 幸久

医学教育専門家制度は、現代の複雑で細分化された医学教育のなかで、高度な医学教育学の専門的人材を養成することを目的に発足しました。具体的には各施設で発生する教育的課題について、能動的かつ具体的な教育改善を図ることができ、またグローバルな視点を持ち医学教育国際認証に対応できる人材の育成に重点がおかれております。

資格取得者は大半が医師ですが、薬学部など医療系専門職教員も若干名おられるため、医学教育専門医ではなく医学教育専門家と呼称しております。2019年12月現在、全国で145名が認定され、私はこのたび中国・四国地区では10人目、山陰地区では2人目、そして島根県では初の資格取得者となりました。

私は2016年に本コースに応募し、以来研鑽を重ねてきました。Teaching and Learningのユニットでは個別の教育機会についていかに質の高い教育を提供できるか、Assessmentではいかに科学的で公正な学習者評価を行うことができるか、そしてCurriculum Developmentでは社会的ニーズや獲得すべき能力から逆算した教育方略とフィードバックをいかに高いレベルで遂行できるかについて、課題に取り組み、group discussionやpeer reviewを重ね、そして何回も審査を受けて単位を取得していきました。

これらを通じて、基本的な教育理論と最新のエビデンスを叩き込まれました。講師の先生方からは厳しい指導もいただき、心が折れそうになる時もありましたが、同志とも励ましあい気持ちを奮い立たせて前進してきました。その後も、医学教育に係る学術活動や教育現場での具体的な教育実践と教育改善の実績、そして医学教育者としてのキャリアヒストリーと将来展望の審査があり、最後には口頭試問もありましたが、それらを乗り越えて合格の報告をいただいたときには、飛び上がって喜びました。振り返ってみると、資格取得が重要ではなく、資格取得を通じて経験した苦勞、苦しみも含めた学びの過程そのものが医学教育者としての自らの肥やしになったと実感しています。

島根大学医学部の教育現場を見てみますと、卒前教育においては医学教育国際認証が目前まで迫っておりその対策が急務です。また附属病院の卒後教育でも今年の初期研修医のマッチング数が低迷し、研修カリキュラムの改革は喫緊の課題です。さらに医師のみならず看護職や技術職を含めた医療スタッフへの倫理教育や医療安全教育、プロフェッショナリズム教育など、病院全職員を対象として取り組む必要のある教育課題も多数あります。

私は、医学教育専門家の資格取得を通じて修得した基本的な教育理論と最新の教育研究エビデンス、そして実地に基づいた学びを生かして、卒前卒後教育、医師と医療スタッフの生涯教育、病院医学教育の質向上にむけて貢献していきたいと考えております。





ご報告



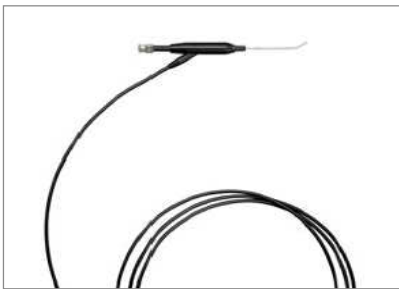
涙道外来診療について

眼科 まなべ かおる
真鍋 薫

当科では2019年の4月より涙道外来を開院いたしました。「涙道」とは、目頭にある涙点から鼻や喉に繋がる涙の通り道のことです。涙や眼脂が止まらないという方の中には、涙道が詰まっていたり、狭くなっている方がおられます。涙道が詰まっていると、涙管内で細菌が増え、感染を起こしてしまうことがあります。最近では、抗がん剤の副作用で涙点・涙道が閉塞している患者さんも増えてきました。

涙道外来では、月1回回崎総合医療センターから涙道専門医の宮崎千歌医師の応援を得て、外来で涙道内視鏡検査、涙管チューブ挿入の処置をしています。先端の口径が1mmもない涙道内視鏡を用いて、涙道内を観察し、涙道の閉塞部位を穿破し、閉塞解除後に涙道にチューブを留置します。挿入するチューブはシリコン製で、挿入後2か月で抜去します。抜去後しばらくして再開塞する場合や、長期にわたる鼻涙管閉塞の場合は、涙嚢鼻腔吻合術(DCR)を施行します。DCRは皮膚切開せず侵襲の少ない鼻内法で行っています。

流涙や眼脂は、軽い症状と思われがちですがQOLを著しく下げ、悩んでいる患者さんは多いと思われます。2019年12月までに45件のチューブ挿入またはDCRを行い、症状が改善したことで患者さんから非常に喜んで頂いています。



涙道内視鏡



涙点から挿入し涙嚢から鼻腔へ通したチューブ

鼻腔内

DCR(涙嚢鼻腔吻合術)



ご報告



日本外傷学会専門医研修施設に認定されました

高度外傷センター センター長 わたなべ ひろあき
渡部 広明

当院は2019年度日本外傷学会専門医研修施設認定審査の申請を行い、同審査により認定を受けました。外傷専門医は、交通事故などによる重症外傷および重症多発外傷患者の生命を担保すべく、その必要性に基づき救急科、外科、整形外科、脳神経外科、麻酔科、放射線科、形成外科などの基本領域の専門医取得の上にさらなる外傷の専門研修を受け、より高度な知識と技能を習得したサブスペシャリティ領域の専門医です。本専門医を取得するには、高度な外傷診療修練が実施できると学会が認定した施設において一定の期間修練を行うことが義務づけられています。

日本外傷学会専門医研修施設は、外傷専門医が修練するにふさわしい環境として、以下の基準を満たすことが条件とされています。その条件は、①日本外傷データベースへAIS (Abbreviated injury scale)-3以上の重症外傷症例を年間50例以上、②ISS (injury severity score) 16以上の重症多発外傷症例を年間25例以上、3年間に亘り登録し、③外傷専門医を一人以上常勤として配置していることが必須要件とされています。

当院は、これらの条件を満たし専門医修練にふさわしい施設と認定されたものです。本認定施設は現在82施設が認定を受けているにすぎません。今回、当院は中国地区で初めて同認定施設として認定を受けました。本認定を受けたことは、地域の外傷専門医育成のための中核施設としての役割を期待されているものと考えています。当院高度外傷センターでは高度な外傷診療を実践できる外傷医を全国から受け入れ専門医修練を進めて参ります。





島大病院ニュース 2020年2月

ご報告



お餅つき会

新しい年が明け、うさぎ保育所には元気な子どもたちの声が帰ってきました。年末年始を家族と楽しく過ごし、しっかり充電済みの子どもたちはますますパワーアップしているようです。

1月10日(金)は新春恒例のお餅つき会を行いました。昔ながらの杵と臼でのお餅つきは子どもたちが楽しみにしている行事の一つです。中でもお父さんたちによる「餅つきデモンストレーション」は最大の見せ場。"うさぎ保育所のネーム入りはっぴ"を着て、杵を担いだお父さんたちの登場に会場は大歓声!! 今年、『T T兄弟』に扮したパフォーマンスで大いに盛り上がりました。その後、ひまわり組の子どもたちは小さい杵で一人ずつお餅つきに挑戦。「べったん!べったん!べったんこ!」のかけ声に合わせて、力いっぱいお餅をつきました。ついたお餅は参加して頂いたお父さん、お母さんたちと一緒にうさぎ保育所の子どもたちみんなで丸めて「出雲風のお雑煮」にして頂きました。最高に楽しいお餅つき会となり、今年も一年元気に過ごせそうです。



島大病院ニュース 2020年2月

ご報告

2020年度 専門研修専攻医の登録について

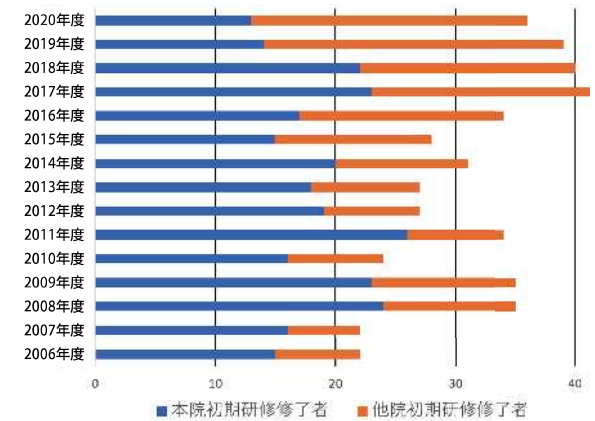
おにがた かずみち
卒後臨床研修センター センター長 鬼形 和道

2020年度の専門研修専攻医の2次募集が締め切られ、島根大学医学部附属病院を基幹病院とする専攻医数は36名となりました。内訳は、内科7名、外科3名、皮膚科1名、小児科2名、産婦人科3名、精神科4名、整形外科1名、脳神経外科1名、眼科4名、放射線科3名、麻酔科2名、救急科2名、リハビリテーション科2名、および病理1名です。

2019年度と同様に、附属病院において初期研修を修了予定者より、県内外の市中病院および県外の大学病院における初期研修を修了予定者の方が多数となっています(図)。なお、2016年度、2017年度、2018年度および2019年度は、歯科専攻医をそれぞれ1名、3名、3名および4名を含んでいます。

また、県内の市中病院を基幹施設として専門研修を開始する専攻医は9名の予定であり、県内の専攻医は合計45名となります。県内で初期研修をおこなった研修医のおよそ70%が、引き続き県内で専門研修を選択しています。

新専門医制度も3年目となり、少なくとも1年以上が必修である連携施設において専門研修をおこなう専攻医が増加しつつあります。皆さま、初期研修医とともに専攻医のご指導をよろしくお願いいたします。



専攻医(後期研修医)受入れ人数

ご報告
島大病院ニュース

2020年2月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063

◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



ご報告
島大病院ニュース

2020年2月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063

◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2020年2月

ご報告



専門看護師・認定看護師 ふれあいフェスタを開催しました

看護部 おがわ まさこ
小川 雅子

当院は、専門看護師（2分野）2名および認定看護師（13分野）22名が在籍しています。専門看護師・認定看護師の役割や日頃の活動を、患者さんやご家族、院内の職員にアピールすることを目的に「専門看護師・認定看護師ふれあいフェスタ」を12月24日（火）に開催しました。

午前中は玄関待合ホールで、外来患者さん、ご家族の方を中心に当院が実施している「退院後訪問について」のリーフレットを配布しました。多くの方にリーフレットを手にとって頂き、退院後訪問という言葉を知って頂いたと言われる方が殆どで、当院の在宅療養支援の取り組みを知って頂く機会となりました。午後からは、各病棟を訪問し、多職種で行う退院前カンファレンスに参加しました。退院後の通院治療について患者さんへ交えて具体的な在宅療養への提案もでき、退院後訪問を推進する上で関連部署との連携強化に向けた足掛かりを得ました。

また、専門看護師・認定看護師の活動を紹介するブースを設け、専門分野ごとに活動内容の掲示等を行いました。看護職員と日々の看護実践やキャリアアップについて語り合う時間をもち、「身近に話ができて良かった」、「実際に会って話を聞くことで興味が湧いた」といった意見が寄せられました。私たちに求められる役割と期待を再認識するとともに、専門看護師・認定看護師の資格取得、役割等に興味を持つきっかけを提供できたのではないかと思います。

今回のイベントでは患者さんやご家族、そして各部署の看護職員と交流ができた有意義な時間を持つことができました。初の試みでしたが今後も継続して開催し、看護の質向上につなげていけるように努めていきたいと思います。



島大病院ニュース 2020年2月

ご報告



Lund大学 Clinical Research Center 訪問記

副病院長(安全管理担当) 地域医療政策学講座 教授 ひろせ まさひろ
廣瀬 昌博

わが国では、総合診療医の育成と臨床研究の活性化が喫緊の課題です。今回、島根大学戦略的機能強化推進経費および医学部附属病院高度医療推進等基金により、教員は岩田教授と廣瀬、学生は3年生で佐々木君、片桐君、織田君、石川さん、山川さんの計7名でLund大学Clinical Research Center (CRC)およびPrimary Health Care Center (PHCC)を訪問しました。

現地時間1月6日午後8時過ぎに到着した私たちは、7日(1日目):昼前にHead of DepartmentのPatrik Midlöv教授との昼食後、2グループに分かれTäbelundとSödervärn PHCCに向かいました。そこでは、患者の診察時間は少なくとも30分を費やすことやDistrict Nurseがガーゼ交換、ワクチン接種などわが国では医師しかできない処置や注射を独立して行っていました。8日(2日目):学生の午前中は臨床研究ネットワークのcoordinatorのEmelieさんからCRCの研究に関する講義があり、午後、学生はMargareta Troein教授とともにLundに移動し、現地の大学生と交流しました。9日(3日目):午前はVelonica医師により家庭医学の臨床教育について、午後はAnders氏による家庭医学における研究方法の講義がありました。10日(4日目):午前は昨年度の医学生による研究発表があり、医学生の研究レベルの高さを実感しました。午後は、CRCの研究室を訪問後、Nailingと呼ばれる、博士論文作成を祝うacademic traditionである行事に参加しました。

スウェーデン南部のスコネ地区(人口130万人)で、PHCCはプライマリケアの提供とともに総合診療医の育成、臨床研究の実施と博士号の取得などの機能を有し、その研究の支援および指導を担うLund大学CRCを中心にPHCCとともにAcademic Knowledge Networkを構築しており、その成果は年間140本以上の論文として発表されています。今回の訪問により、スウェーデンの医療体制をはじめ、総合診療医の養成や臨床研究の重要性等を学ぶことが目的でしたが、本学学生が医療はどうあるべきかなど、彼らの心境に少なからず変化があったことは間違いありません。



2020年2月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



2020年2月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





ご報告



仮想現実 VRを利用したリハビリテーション

リハビリテーション科 教授 まにわ そうきち
馬庭 壯吉

当科では、本学卒業生の原 正彦先生(株式会社mediVR 代表取締役社長)が開発した『mediVRカグラ』を用いて、2019年秋から神経変性疾患患者さんの診療を行っています。

患者さんは図1のようなゴーグル(ヘッドマウントディスプレイ)を着用し、複数のゲーム(図2)を楽しみながら運動機能や姿勢バランスを向上することができます。原先生によれば、反復練習により、「遊んでいたらいつの間にか、〇〇できる様になっていた」というところを目指しており、さらに二重課題型の認知機能訓練も可能です。すでに脳梗塞患者さんのリハビリテーションに導入されておりその実績が報告されています。

当院では、主に脊髄小脳変性症の患者さんの歩行能力改善を目標に使用しています。脳の可塑性を利用した訓練ですが、同時に体幹筋力訓練や上肢の関節可動域訓練の要素も有しています。椅子に座った状態での訓練で、歩行時のバランスが改善されるため、転倒の危険性も軽減されます。訓練直後からの歩行バランス改善効果を体験しており、今後は脳神経内科と共同で臨床研究を計画しています。



図1. 訓練風景
仮想現実でのゲームに参加

手に持ったセンサーでヘッドマウントディスプレイ画面中の目標をとらえます。



図2. VRの画像
数種類のゲームを楽しめます。左：水戸黄門ゲーム。右：野菜ゲーム。



ご報告

—ALPとLDの測定方法が変わります—

検査部 部長 やの しょうぞう
矢野 彰三

検査項目のアルカリホスファターゼ(ALP)と乳酸脱水素酵素(LD)の測定方法が変更になります。2020年4月1日より準備の整った施設から変更開始することになっています。このことについて、簡単にご説明いたします。

●ALP活性の測定方法

わが国の99%以上の施設は、日本臨床化学会(JSCC)勧告法に基づいたJSCC標準化対応法を用いていますが、海外では大部分が国際臨床化学連合(IFCC)法に準じたALP活性測定試薬を用いています。そのため、国際的な治験の参加や診断・治療のプロトコール作成などに問題が生じています。両者とも測定原理は同じですが、使用する緩衝液が異なります。

食後に小腸型ALP(ALP 5)活性が高まりますが、血液型(B型かO型でLewis血液型が分泌型)のヒトでは血中ALP活性が20%程度上昇することが知られています。JSCC標準化対応法はこの影響を強く受けませんが、IFCC法では影響を受けにくくなります。

●LD活性の測定方法

LDは、ビルビン酸と乳酸との間の酸化還元反応に関与する酵素で、5種類のアイソザイムが存在します。各臓器での発現量の違いから、心筋、脳、赤血球、腎ではLD 1、LD 2が優位で、脾、膵、リンパ腺ではLD 3優位、肝や骨格筋ではLD 4、LD 5が優位を占めます。JSCC勧告法とIFCC法では使用する緩衝液やpHが異なります。各アイソザイムの反応性に差があるため、両測定法のLD総活性に差が生じるとされています。

●どう変わるのか?

JSCC法からIFCC法に変更すると、ALP測定値がおよそ1/3(換算係数:0.35、逆換算係数:2.84)になります。偽高値が減少し、諸外国の測定値と互換性を持つこととなります。LD測定値は大きく変わりませんが、肝機能障害を伴うLD 5型高値例では、これまでより低い値をとると思われます。詳細は日本臨床化学会HPをご参照ください。周知の上、スムーズな変更を心がけたいと思います。

■ALP測定値が現行法の約1/3になります。

	現行測定法	新測定法
成人男女	106~322 U/L	38~133 U/L

■LDは測定値、共用基準範囲ともに現行法と変わりません。

成人男女：124~222 U/L





在宅医療を考える市民の集い 「あなたのお家で、今日からできるケアの話」を開催しました

地域医療政策学講座 教授 ひろせ まさひろ
廣瀬 昌博

地域医療政策学講座では、文部科学省未来医療研究人材養成拠点形成事業で地域包括ケアシステムの構築に尽力してまいりました。本事業は2018年3月末で終了致しましたが、島根大学医学部附属病院が地域包括ケアシステムにおける人材育成の拠点として、患者さんや住民の方々への在宅医療に関する情報提供は主要な活動のひとつです。

そこで、2020年1月18日(土)当院みらい棟4階ギャラクシーにおいて、在宅医療を考える市民の集い「あなたのお家で、今日からできるケアの話」を開催しました。冬とは思えないすばらしい天候にも恵まれ、多数の方々にご参加いただきました。

はじめに、参加者の皆様に参加の御礼とともに挨拶を述べた後、各部署からの講義が始まりました。講師は、歯科口腔外科・大熊里依歯科医員、口腔ケアセンター副センター長・松田悠平助教、脳神経内科・安部哲史助教、リハビリテーション部・熊谷英岳言語聴覚士、大西友香作業療法士ならびに地域医療連携センター・安田真紀看護師長、清水美穂子皮膚・排泄ケア認定看護師でした。

地域包括ケアシステムにおいては、各地域の病院を中心として、回復期・慢性期病院、診療所、訪問看護ステーション、介護福祉施設ならびに在宅が有機的かつ円滑に連携することが必要で、しかも多職種によることが不可欠です。そこで、「集い」ではそれぞれの分野でエキスパートとして活躍する医師ならびに各医療スタッフを揃えました。その内容は、在宅で患者さんや家族のみなさんにすぐに役立つよう、医師による理論と医療スタッフによる実践を組み合わせ、口腔ケア、嚥下機能や栄養、住居環境の話題に加え、最後には在宅医療における当院の役割に関する話題としています。ご参加の方々はとても熱心で、「このような活動を今後も続けてほしい」、「来年も参加したい」など、ありがたいご意見が多数ありました。

さいごに、ご参加いただきましたみなさんはもちろん、ご協力いただきました講師の先生方や関係諸機関のみなさまに心より感謝申し上げます。

